

N M — 8

腰椎穿刺・麻酔シミュレーター

取 扱 説 明 書

株式会社京都科学

腰椎穿刺・麻酔シミュレーターは、

脊髄麻酔 脊髄穿刺 硬膜外麻酔 尾部麻酔
仙骨神経遮断 腰部交感神経遮断

等の演示や実習が楽に出来るようにデザインしてあります。視覚的にも触覚的にも実物そっくりに作ってあります。

《内部構造》

このシミュレーターは2つの部分から出来ています。第一部は透明な合成樹脂製の窓の内に突き出して見える第一、第二腰椎と椎間円板、黄色靱帯等です。第二部は実際に練習に使用する部分で、第三腰椎から尾骨上部までの総ての軟組織と骨性構造を組み込んで在ります。

《利用範囲》

このシミュレーターは月並の模型では出来ない様な色々な実習を生徒達にやらせる事ができます。

このシミュレーターの大きな特徴は第2～第5腰椎間に位置する3～5ミリの正確な硬膜上腔です。

抵抗をなくするテクニックによる硬膜外麻酔法の練習を敏速になしとげることができます。

このシミュレーターは立てた位置と、横たえた位置のどちらでも練習ができます。

硬膜は水の様な液体で充たすことができます。液を充たした後で硬膜穿刺の練習すると、穿刺が正確であれば穿刺針を通して硬膜内の液が流れ出すので練習の成果が視覚的に実証されます。正確な穿刺に成功した時の、指頭のフィーリングを良く経験させましょう。

脳脊髄液は標準的なマンメーター装置を使って計測できます。

尾部麻酔のテクニックはシミュレーターの硬膜上腔へ針を刺して練習できます。

腰部交感神経と仙骨神経の遮断は仙骨管裂孔（2つの仙骨角の間にある裂け目状の隙間）への刺入により練習できます。

《使用のための一般的な注意》

A 脊髄に注入する

浣腸用袋の輸出管のクランプを閉じ、袋に水を充たして下さい。そして袋をシミュレーターより約45cmほどの高さに吊して下さい。次に輸出管の端に付いているコネクターをシミュレーターの上面から出ているチューブに差し込んで下さい。輸出管のクランプを開けば水は脊柱へ流れ込みますシミュレーター側チューブに付いている空気抜きの細い管から水が流れ出す用になったら栓をして下さい。

B 位置の固定

付属品の止め金をシミュレーター背部にある2つの受け金のどちらかに挿入し、立位か横位か希望する位置にシミュレーターをセットして下さい。

C シミュレーターを新聞紙其他の印刷した紙やプラスチックの上に置かないで下さい。印刷インキがシミュレーターに付着して取れなくなります。

D 練習開始

注射しようと思う部分に付属品の潤滑を塗って下さい。それは皮膚の緊張をゆるめ針の入るのを容易にし、シミュレーターの寿命をのばします。

E 20ゲージ以上の太い注射針を使わないで下さい。先のなまった針も使わないで下さい。シミュレーターを痛める原因になりますから。

《使用後の処置》

シミュレーターが汚れた場合は別売品のクリーナーで汚れた部分を軟かい布か紙でふきとって下さい。